

精度や生産性の高い スウェーピング加工技術で世界一に

ジャロック(福井市)はスウェーピング加工装置の開発・製造を手がける機械メーカー。装置だけではなく、スウェーピング部品の委託生産も幅広く引き受けている。独自のCNC(コンピュータ数値制御)加工装置は一組の金型でさまざまな形状のシャフトなどを成形でき、寸法精度や生産性が高いのが特徴だ。自動車や電子部品など、国内の基幹産業を支えるとともに、「スウェーピング加工技術世界一」を目標に、海外での顧客拡大にも力を入れている。

シャフト加工に強み



▲チタンなど非鉄金属加工に強み

スウェーピング加工とは、分割された金型が回転しながら、丸棒やパイプ材をたいたいて外径を絞ることによって成形する冷間鍛造技術。パイプ材を成形するのではなく、部品の軽量化を図れるほか、短い素材からたき延ばすため、素材費も低減できる。また、切削加工と違い切粉が発生しないという利点もある。

ジャロックの加工装置はCNCにより丸棒やパイプ材の径方向と長手方向の2軸を同時制御することで、テーパやストレート、中間絞りなど任意の形状の部品を自在に生み出すことができるのが最大の特徴。直径40mm以下の素材を主に扱い、直径1〜5mmの部品の加工であれば±100



▲CNCスウェーピングマシン

技術継承問題 解決も

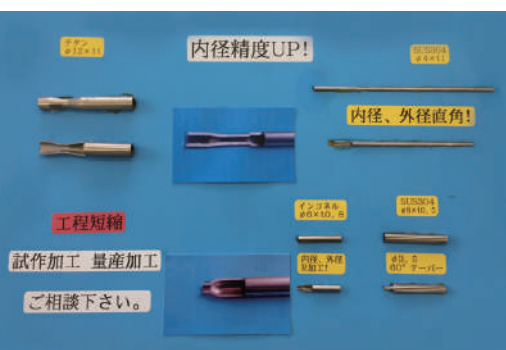
「人格を高めること、それがよい技術者になる」という考え方を、社内で人材教育の取り組みも始めている。「例えば燃料などの噴射制御システムに使用される直径10mm以下のパイプ材の加工は職人の技に頼っている。計画的に工場の稼働を休止することもあつたという。齋藤部長は「単に加工を請け負ったり、装置を提供したりすることだけが仕事ではなく、常に顧客に寄り添い、行動しようと呼びかけている。社内では、相手が仕事を任せ、それが重要で、それを徹底することが人材育成にもつながる」と話している。

分の1mm程度の精度を出すことができる。シャフトの先端などを部分的に「肉増し」でき、強度もアップするため、その部分にねじ切りなど加工を施すことも可能である。

チタン人工骨を加工

1965年に創業。世界で初めてCNCスウェーピングマシンを完成させ、世に送り出した。

「入格を高めること、それがよい技術者になる」という考え方を、社内で人材教育の取り組みも始めている。「例えば燃料などの噴射制御システムに使用される直径10mm以下のパイプ材の加工は職人の技に頼っている。計画的に工場の稼働を休止することもあつたという。齋藤部長は「単に加工を請け負ったり、装置を提供したりすることだけが仕事ではなく、常に顧客に寄り添い、行動しようと呼びかけている。社内では、相手が仕事を任せ、それが重要で、それを徹底することが人材育成にもつながる」と話している。



▲さまざまな加工事例

中小製造業では職人の高齢化や後継者不足で、技術継承が困難になっているケースも少なくない。



株式会社 ジャロック

〒919-0321 福井県福井市下河北町22-1 TEL:0776-38-6500 FAX:0776-38-6200

E-mail: main@jaroc.co.jp URL: https://www.jaroc.co.jp/